

都市再生整備計画 事後評価シート  
鶴岡市中心市街地再生地区

令和4年7月

山形県鶴岡市

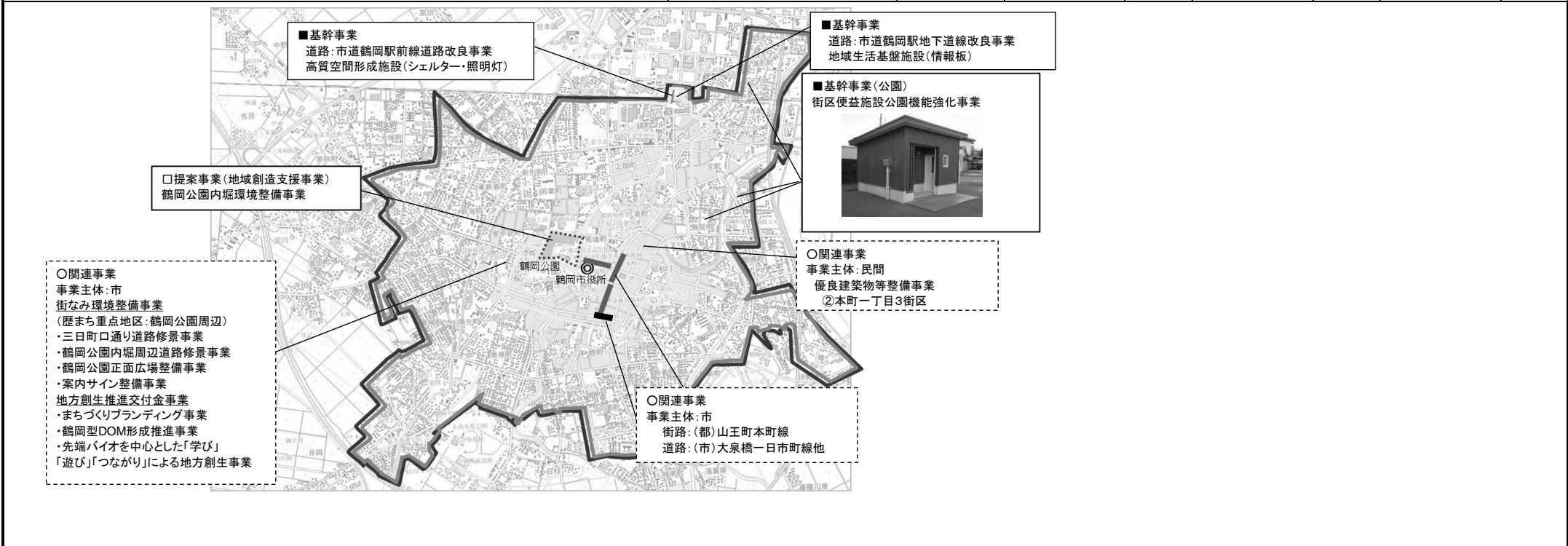
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県		市町村名	鶴岡市		地区名	鶴岡市中心市街地再生地区			面積	881ha			
交付期間	平成30年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	232.3百万円	国費率	0.412					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
			基幹事業	道路：市道鶴岡駅前線道路改良事業、市道鶴岡駅地下道線改良事業 公園：街区公園便益施設機能強化事業										
	当初計画から削除した事業		提案事業	地域創造支援事業：鶴岡公園内堀環境整備事業										
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	新たに追加した事業		基幹事業	地域生活基盤施設：市道鶴岡駅地下道線(情報板) 高質空間形成施設：鶴岡駅前広場(シェルター、照明灯)			道路事業からの移行			なし				
			提案事業											
交付期間の変更		当初				交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			なし					
		変更												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	空き店舗減少	店舗数	40	H28	29	R4	42	50	×	ありなし ●	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり空き店舗数が増加した。	令和4年10月	
	指標2	中心市街地人口の総人口に占める割合	%	5.4	H28	5.6	R4	5.4	5.3	△	ありなし ●	目標値には至っていないが緩やかな減少にとどめた。	令和5年3月	
	指標3	自転車歩行者通行量	人/日	3,994	H28	4,194	R4	3,937	2,878	×	ありなし ●	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり通行量が減少した。	令和4年9月	
	指標4										ありなし			
指標5										ありなし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	主要観光施設入込客数	人/年	150,800	H28			156,300	68,500			新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、観光入込客数が減少した。	令和5年3月	
	その他の数値指標2													
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	中心商店街(銀座通り商店街)において、まちづくりイベントを開催し、エリアリノベーション展示会や、高校生によるまちづくりプランのプレゼンテーション、ワークショップ等を行ったことにより、市民のまちづくりへの関心が向上した。													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況									今後の対応方針等	
	モニタリング	毎年度、指標に対する数値の把握を実施した。					都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			● 年度ごとの数値の把握を継続する。	
	住民参加プロセス	チャレンジショップ事業					都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			● 事業を継続する。	
	持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				
							都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

## 様式2-2 地区の概要

鶴岡市中心市街地再生地区(山形県鶴岡市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
先端研究産業(サイエンスパーク、バイオベンチャー)により、若年層に魅力ある「働く場所」をつくり、多様な住まいと住まい方を提供する、持続可能な魅力ある「都市のリノベーション」 ～城下町の歴史・文化・伝統、食等の地域資源を活かした交流拡大、にぎわい創出による中心部の再生～	空き店舗減少	単位:店舗数	40	H28	29	R4	50	R3
	中心市街地人口の総人口に占める割合	単位:割合(%)	5.4	H28	5.6	R4	5	R3
	自転車歩行者通行量	単位:人/日	3,994	H28	4,194	R4	2,878	R3
		単位:						
		単位:						



まちの課題の変化	中心市街地を含む市全域の市街地において、人口減少が進んでいる。 新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の行動が変容している。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>鶴岡駅周辺で整備した道路施設は、周辺施設との人流を拡大できるよう適切な維持管理を行う。また、令和3年度末に策定する鶴岡駅前地区将来ビジョンの具現化に向けた社会実験等の取り組みを行う。</li> <li>シビックコア計画による市役所周辺の都市機能の集積が一区切りを迎えることから、コンパクトなまちづくりや中心市街地への居住誘導、商店街の活性化に向けた今後の将来像を示す中心市街地将来ビジョンの検討を行う。</li> <li>公共交通との連携を図りながら、コンパクト+多極ネットワーク型のまちづくりを推進する。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道鶴岡駅前線道路改良事業	67.3	L=40m	13.3	L=40m	鶴岡駅前広場(シェルター・照明灯)部分を高質空間形成施設に移行	影響なし	●	
道路	市道鶴岡駅地下道線改良事業	59	L=82m	50	L=82m	市道鶴岡駅地下道線(情報板)部分を地域生活基盤施設に移行	影響なし	●	
公園	街区公園便益施設機能強化事業	80	N=8基	80	N=8基	なし		●	
地域生活基盤施設	市道鶴岡駅地下道線(情報板)		なし	9	N=10基	道路事業(市道鶴岡駅地下道線改良事業)から移行	影響なし	●	
高質空間形成施設	鶴岡駅前広場(シェルター・照明灯)		なし	54	A=306.3㎡、N=13基	道路事業(市道鶴岡駅前線道路改良事業)から移行	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	鶴岡公園内堀環境整備事業	17	A=5ha	17	A=5ha	なし		●	
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
街なみ環境整備事業		歴まち：鶴岡公園周辺地区	533	474	平成26年4月1日～ 平成31年3月31日	平成26年4月1日～ 平成31年3月31日	本町二丁目広場、多目的交流広 場、鶴岡公園周辺の案内サインが 整備され、賑わいの創出につながっ ている。		
優良建築物等整備事業		本町一丁目3街区	35	26	平成31年1月21日～ 令和3年3月31日	平成31年1月21日～ 令和5年3月31日	事業内容の変更があり、事業 期間を延長して実施してい る。		
街路事業		(都)山王町本町線	506	1,005	平成28年4月1日～ 令和3年3月31日	平成28年4月1日～ 令和7年3月31日	事業期間を延長して実施中。		
道路事業		(市)大泉橋一日町線他	586	892	平成30年4月1日～ 令和3年3月31日	平成30年4月1日～ 令和10年3月31日	事業期間を延長して実施中。		
地方創生推進交付金事業			86	38	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日	まちづくりセンターのリノベーションによ り、中心市街地のにぎわい拠点となってい る。		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	達成 見込み	達成 見込み	あり	なし	
指標1	空き店舗減少	店舗	鶴岡TMOが行う空き店舗調査を活用。	54	H23	40	H28	29	R4	モニタリング	R1	42	モニタリング	×	●
										事後評価	確定見込み	●	50	事後評価	
指標2	中心市街地人口の総人口に占める割合	%	住民基本台帳の町別データを抽出し、市総人口と中心市街地居住人口を整理し算定。			5.4	H28	5.6	R4	モニタリング	R1	5.4	モニタリング	△	●
										事後評価	確定見込み	●	5.3	事後評価	
指標3	自転車歩行者通行量	人/日	毎年9月第4週の金曜日、日曜日の2日間において、定点に調査員を配置し、カウンタで計測。	3,841	H23	3,994	H28	4,194	R4	モニタリング	R1	3,937	モニタリング	×	●
										事後評価	確定見込み	●	2,878	事後評価	
指標4										モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定見込み			事後評価	
指標5										モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定見込み			事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	新型コロナウイルス拡大の影響により空き店舗活用数が少なかった。	
指標2	目標値は達成できなかったものの、市全体の人口減少に対して緩やかな減少にとどまったことは評価できる。集合住宅等の建設の動きも見られる。	
指標3	新型コロナウイルス拡大による外出自粛の影響を受けたものと考察できる。中心市街地においては、道路整備の効果により、アフターコロナでは人流が回復する可能性は大きい。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合



添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

中心商店街(銀座通り商店街)において、まちづくりイベントを開催し、エリアリノベーション展示会や、高校生によるまちづくりプランのプレゼンテーション、ワークショップ等を行ったことにより、市民のまちづくりへの関心が向上した。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	「空き店舗数」「中心市街地人口の総人口に占める割合」「自転車歩行者通行量」の指標について、毎年度調査を実施し数値を把握している。	同様の方法で調査を継続する。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
チャレンジショップ事業	予定どおり実施した ●	創業・開業にあたり商店街の空き店舗を活用する事業者に対し、リフォーム経費等を支援している。 【実施結果】R1:1件、R2:1件	事業を継続する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
中心市街地活性化計画計画担当者会議	関係課担当職員(商工課、都市計画課)	令和4年3月15日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○		指標○		指標○		指標○	
指標名		自転車歩行者通行量							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	なし		広場や案内サイン整備により、まちあるきの環境向上が図られた。						
提案事業	なし								
関連事業	街なみ環境整備事業	○							

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標〇		
指標名		空き店舗減少			中心市街地人口の総人口に占める割合			自転車歩行者通行量					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道鶴岡駅前線道路改良事業)	△	人口減少のみならず、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も大きく、目標を達成することができなかった。	III	△	道路及び公園整備を行ったが、目標達成には至らなかった。ただし、緩やかな減少にとどまったことは評価できる。	I	△	新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛等の影響が大きく、目標を達成することができなかった。	III			
	道路(市道鶴岡駅地下道線改良事業)	△			△								
	公園(街区公園便益施設機能強化事業)	—			△								
	地域生活基盤施設(市道鶴岡駅地下道線(情報板))	△			△								
	高質空間形成施設(鶴岡駅前広場(シェルター・照明灯))	△			△								
提案事業	地域創造支援事業(鶴岡公園内堀環境整備事業)	—			△			△					
関連事業	街なみ環境整備事業(歴まち:鶴岡公園周辺地区)	△			△			○					
	優良建築物等整備事業(本町一丁目3街区)	△			△			—					
	街路事業((都)山王町本町線)	△			△			△					
	道路事業((市)大泉橋一日町線他)	△			△			△					
	地方創生推進交付金事業	△			△			△					

※目標未達成への影響度

- ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	中心市街地商店街における空き店舗を活用したチャレンジショップ事業等を継続し、空き店舗の解消を図る。	空き家バンク等の情報発信を強化と、中心市街地居住促進事業の継続実施等により良好な住環境を整備し、居住誘導を図る。	公共交通との連携を図り、歩いて暮らせるまちづくりの観点も含めた中心市街地の将来ビジョンの策定を目指す。
------------------	---	--	---

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画検討会議	関係各課部課長級職員(企画部、商工観光部、建設部部課長)、鶴岡商工会議所(専務理事、経営支援課長)	第1回 令和4年7月 第2回 令和4年10月 第3回 令和4年12月	商工課 都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
居住人口の減少	中心市街地居住割合の目標は達成できなかったが、人口減少が進展する中において緩やかな減少にとどまったことは評価できる。	コンパクトシティの形成に向け、ランドバンク事業のPR強化を図るとともに、中心市街地居住促進事業等による低未利用地の利活用を推進する。	住みやすく、歩きやすいまちに向けて徐々に環境整備を図っているが、マイカー依存度が高いため、公共交通施策とあわせた対応が必要である。
中心商店街の停滞	空き店舗数減少の目標は達成できなかった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により自転車歩行者通行量も減少した。	新型コロナウイルス感染症拡大による行動変容も踏まえた中心市街地将来ビジョンの検討を行う必要がある。	
まちなか観光の伸び悩み	事業の実施により、駅周辺の道路環境が改善されたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により観光客は減少した。	中心市街地の観光資源の掘り起こしやユネスコ食文化等の地域資源、アフターコロナを見据えたインバウンドの取り組みなど、まちなか観光の推進に向けた検討を行う必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	整備した施設の維持管理	鶴岡駅周辺で整備した道路施設は、周辺施設との人流を拡大できるよう、適切な維持管理を行う。	鶴岡駅周辺の市有施設の整備改修(マリカ東館、マリカ広場、旧ジャスコ跡地)

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	中心市街地への居住促進	シビックコア計画による市役所周辺への都市機能の集積が一区切りを迎えることから、コンパクトなまちづくりや居住誘導、商店街の活性化に向けた今後のあり方を示す中心市街地将来ビジョンの検討を行う。	中心市街地将来ビジョンの検討 市有地、市施設の活用方法の検討 中心市街地居住促進等の既存事業の活用
	中心商店街の活性化	同上	中心市街地将来ビジョンの検討 中心市街地活性化基本計画(次期計画)の検討
	まちなか観光の推進	中心市街地の観光資源の掘り起こしやユネスコ食文化等の地域資源、アフターコロナを見据えたインバウンドの取り組みなど、まちなか観光の推進に向けた検討を行う必要がある。	市街地道路、歩行空間の環境整備 公共交通施策との連携

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

市立地適正化計画で定める都市機能誘導区域のうち、中心市街地拠点(150ha)を範囲とする「中心市街地将来ビジョン」の令和5年度での策定に向け検討を進める。ビジョンを中心市街地の中長期的なまちづくりのグランドデザインとして位置付け、ビジョンとの整合性を図りつつ、実現に必要な事業を効果的に実現するため、戦略的な中心市街地活性化基本計画(第3期計画)の策定を目指す。



## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・採用した指標は、鶴岡市中心市街地活性化基本計画において毎年度数値が整理されているもので、モニタリングを容易に実施することができた。	毎年整理される指標のほか、事業が直接効果を与える指標の採用も必要。
	うまくいかなかった点	中心市街地全体に係る指標を採用したため、実施事業が直接受益に及ぼす効果が測定しづらかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		毎年整理される指標のほか、事業が直接効果を与える指標の採用も必要。
	うまくいかなかった点	中心市街地全体に係る指標を採用したため、実施事業が直接受益に及ぼす効果が測定しづらかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	関連事業において、まちづくりイベントやワークショップを開催したことで、市民のまちづくりに対する興味・関心につながった。	対面での意見交換のみならず、WEBを活用するなど多様な市民参画のあり方の検討が必要。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・採用した指標は、鶴岡市中心市街地活性化基本計画において毎年度数値が整理されているもので、モニタリングを容易に実施することができた。	モニタリングの実施は、事業の進捗確認を行う上で有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

### 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画の活用予定

引き続き中心市街地エリアのまちなか居住の推進に向けた事業展開が必要であるため、都市再生整備計画事業の活用を見据え、検討を行う。



## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット					
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	なし
-------	----

## (6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員					
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--